



# 『 ぱんだより 』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。  
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート  
 第87号(2011年10月31日)辛亥革命から100年



## 中国の中山さん

ご存知の方も多いかもかもしれませんが、中国では「中山」という文字を多く目にします。広東省には中山市がありますし、大きな都市にはほとんど中山路という道路があります。また、中山大学、中山医院、中山公園などの施設の名前としても至る所に中山という名前が使われています。「中山路」という道路に関して言えば、一説にその数は全国で400本にも及ぶとのこと。この中山という名のほとんどは辛亥革命を主導した「孫文」の別称である「孫中山」にちなんで付けられたものです。

孫中山こと孫文に関して、日本では「孫文」という名が一般的ですが、中国では「孫中山」が一般的な呼び名です。中国のインターネット検索エンジン最大手の百度(Baidu)を使って検索してみたところ、「孫文」の検索結果は423万件なのに対して、「孫中山」で検索するとその検索結果は10倍の4250万件にも達しました。

「孫中山」という呼び名は日本人にとってはそれほど馴染みがありませんが、実は日本と深い関わりがあります。というのも、孫文は革命に失敗して日本に亡命していた時期があったのですが、その際に偽名として名乗ったのが「中山樵」という名です。『孫文 百年先を見た男』(田所武彦著)によると「中山」は日比谷の中山公爵家(明治天皇の生母を出した華族)の前を通り名が気に入ったことからきており、「樵」はきこりの意味で、「中国の山のきこり」になって黙々と中国革命のためにはたらくという意味がこめられているとのこと。当初は亡命中の偽名でしたが、その後も孫文本人が「中山」の名を使い続けたことから孫中山の名が定着して、中国ではそれが主な呼び名として現在に至っています。

孫文



出所: Wikipedia

孫文に関する年表

1866年	広東省香山県(現:中山市)に生まれる。
1878年	ハワイに渡り中等教育を受ける
1888年	中国に帰国し、広州、香港で医学を学ぶ。
1892年	マカオ、広州で医院を開業。
1894年	ハワイで革命組織「興中会」を組織する。
1895年	広州で最初の武装蜂起。失敗し日本に亡命。
1896年	ロンドンで清国に監禁された体験を発表したことにより、革命家として著名になる。
1900年	広東省惠州で武装蜂起するが失敗。
1905年	東京で中国同盟会を結成し、総理に就任。「三民主義」を表明。
1911年	辛亥革命勃発。
1912年	1月 中華民国臨時政府樹立。臨時大總統就任。 3月 大總統の地位を袁世凱に禅譲。
1919年	中華革命党を中国国民党へと改組。
1924年	1月 共産党と第1次国共合作を成立させる。 9月 北方軍閥討伐の挙兵(北伐)。 11月 神戸の講演で「大アジア主義」を発表
1925年	北京にて逝去。享年58歳。

出所: 各種資料をもとにスパークス・アセット・マネジメント作成

本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。





# 『ぱんだより』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



## 中国革命の父

そもそも孫文とはどのような人でしょうか。ウィキペディアでの説明を引用すると、「中国生まれ・アメリカ国籍の政治家・革命家。初代中華民国臨時大総統。辛亥革命を起こし、「中国革命の父」、中華民国では国父（国家の父）と呼ばれる。また、中華人民共和国でも「近代革命先行者（近代革命の先人）」として近年「国父」と呼ばれる。海峡兩岸で尊敬される数少ない人物である。」とあります。この中でも最も知られているのが1911年の辛亥革命を主導したことでしょう。当時の中国は満州族の清朝が国を治めていましたが、国の弱体化が顕著で外国勢力の脅威にさらされていました。孫文は革命により新たな政権を樹立して国力を強化する必要を感じており、1895年を皮切りに数度の武装蜂起を試み、1911年10月10日の武装蜂起でついに清朝を滅亡に追い込みました。

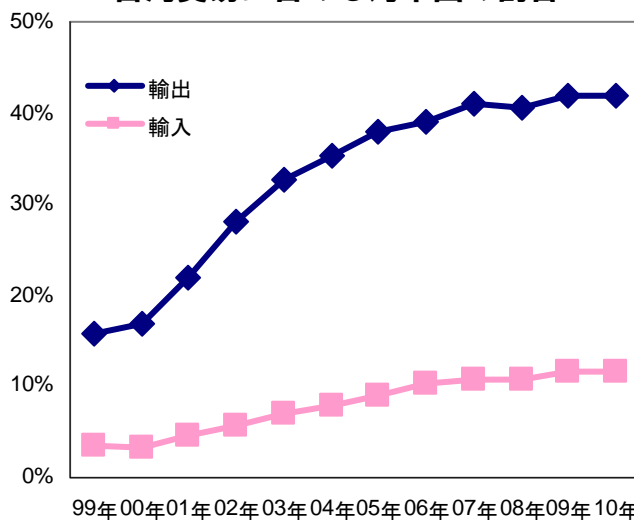
## 中国と台湾

台湾ではこの辛亥革命の起きた翌年の1912年1月1日を起点に「中華民國〇〇年」という独自の年号を用いており、10月10日を建国記念日としています。よって今年2011年10月10日は台湾にとってはちょうど建国100周年の記念すべき建国記念日でした。中国本土では10月10日は建国記念日ではないのですが辛亥革命100周年として式典があり、一部で健康不安説が流れていた江沢民元国家主席も久しぶりに公の場に姿を見せました。この100周年に対する台湾と中国本土での扱いの違いに関して、中国の近代史に馴染みの無い方には分かりにくい話かもしれませんが簡単に触れますと、辛亥革命直後に孫文が樹立した中華民国は共産党との内戦の後に台湾に拠点を残したため、台湾では1911年を歴史の起点としているのに対して、内戦で中国本土を押さえた中国共産党が1949年10月1日に中華人民共和国を設立したため中国大陸ではその日が建国記念日になっています。そのような歴史的な背景によって台湾では中華民国建国100周年、中国では辛亥革命100周年という風に式典の意味合いが若干異なっているのです。ただ、名目は異なるにしても孫文の功績を讃えているという点では中国と台湾の双方の意図は共通しています。

政治に関しては未だ深い溝があると言える中国と台湾ですが経済に関しては台湾の輸出に占める中国向けの割合が4割を超えるなど、既に主要な取引先となっています。また中国・台湾間で締結された「経済協力枠組み協定」(ECFA)の効果でさらに関係が深くなる可能性が高いと思われます。もともと両者に共通の「国父」である孫文はその中で再度見直されるべき人なのではないでしょうか。

(チャナリスト)

## 台湾貿易に占める対中国の割合



出所：中国税関総局、台湾税関総局

本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。